

20019

## 急性冠症候群に対する心臓 CT の心筋灌流評価

【目的】近年、急性冠症候群(ACS)の除外診断として心臓 CT(CCT)が行なわれている。また CCT では、冠動脈の高度狭窄や閉塞により心筋内に造影低下領域(HEA:hypo-enhancement area)が示されることが報告されている。今回、ACS 症例の HEA と心筋逸脱酵素との関係について検討した。【方法】対象は 2012 年 1 月～2014 年 12 月 CCT 施行後、ACS と診断され PCI が行われた 57 症例。方法は収縮期の最適位相画像から HEA を評価し、HEA を認めた場合、正常領域と HEA の CT 値差と peakCK 値及び peakCKMB 値の相関関係について検討した。【結果】すべての対象で HEA が検出され、CAG で診断された責任冠動脈の灌流域と一致した。計測した平均 CT 値は、正常領域:103±19HU, HEA:40±17HU, CT 値差:63±25HU であった。心筋逸脱酵素は、peakCK 値:1233U/L, peak CKMB 値:98.1±98.9U/L であった。CT 値差と peakCK 値は  $r=0.61$ ,  $p<0.001$ , CT 値差と peakCKMB 値は  $r=0.65$ ,  $p<0.001$  であり共に有意に相関した。【結論】正常領域と HEA の CT 値差と心筋逸脱酵素には相関を認め、CT 値差が ACS の重症度を反映している可能性が示唆された。これにより、高度石灰化病変の評価や、多枝病変において責任冠動脈の推定も可能になる。ACS は速やかな血行再建が望ましく時間的制約があるため、短時間で解析可能な心筋灌流評価は臨床的に意義があると考えられる。